

お母さんと僕と一緒に卒業しよう

広島県 しょうりんじ 少林寺住職 みね おか しゅん とく 峯岡俊徳

今朝はお母さん僕と一緒に卒業しようというお話です。

お檀家さんの仲君から聞きました。

僕の母は、子供の頃怪我をして、歩くことが難しくなりました。しかし不自由な体で僕を産み育ててくれました。また自動車の運転免許を取り、毎日痛いのを我慢しながら、頑張って働いてくれました。母には色々不自由がありました、不幸ではありませんでした。みんなから「たかちゃん、たかちゃん」と呼ばれ人気者でしたから。僕はそんな母が大好きでした。

ただ、運動会の親子競技には出られず「ごめんね」と寂しそうな顔をする母を見る時は、可哀想でした。

だから僕には、心に秘めた思いがありました。

不自由な身体で痛いのを我慢して育ててくれたお母さんと一緒に、小学校を卒業しようと思っていたのです。

卒業式当日、母は遠慮がちに、最後部の席に座っていました。僕の名前が呼ばれました。僕は躊躇することなく振り向き、母の座る最後列に向かって歩き出しました。母に「おんぶするから乗って」と言うと母はビックリしていました。「いいの？」と母は僕に聞きました。僕は「恥ずかしくないのかい？」と言う意味だと思いましたから「大丈夫。僕はどうしても母さんと一緒に卒業したい。」と言いました。母は僕の肩に手を置いて背中に乗ってくれました。しばらく歩いた時、僕の首に母の涙が落ちてきました。僕は大好きな母と一緒に卒業出来る事をととても誇らしく思いました。